

ベストクラス選定理由書

作成者：白井俊介、佐藤優衣、告野雅子、中原竜彦、前澤拓、池田浩之

科目名称	特別支援教育リーダーのための創発的コミュニケーション (担当教員名： 宇野 宏幸、岡村 章司、石橋 由紀子)		
課 程	： 大学院（修士）	開講時期	： 前期
授業形態	： 講義・演習	授業規模	： 30人以下
インタビュー対象教員名 宇野 宏幸、岡村 章司、石橋 由紀子 (実施日時：令和3年9月13日(月) ; 実施場所：Zoomによる実施)			
インタビュー対象受講者名 水野 仁美 (実施日時：令和3年9月11日(土) ; 実施場所：Zoomによる実施)			
<p>選定理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教員のインタビューを通して、「多様な意見を持つ受講生同士での対話的な学びを通し、学校現場にてリーダーシップを発揮できる教員を育成する」という明確な目的のもと、3名の教員が「ファシリテーション」「プレゼンテーション」「コンサルテーション」というテーマを分担し、グループワークにおいての様々な工夫が行われていることがうかがわれた。 ● 「ファシリテーション」では、メンバー交代を行ったり、グループでの答えを出すことを求めたりし、様々な工夫を忍ばせたワークを体験させていた。その後の振り返りにて、ワークに忍ばせた工夫の意図を伝え、それがワークにどのような影響を与えたのかを受講生に考えさせることで、工夫の効果を体験・体感させ、受講生に気付きを与えていた。 ● 「コンサルテーション」では、「コンサルテーションの極意」という冊子づくりを行うことを最初に提示し、最終的なゴールを示すことで、見通しを持って取り組めるようにしていた。「支援とはどういったものか?」という根本的な問いを投げかけることで、アイデアが発散したり、対話が促されたりするような問いの工夫や、「支援された体験を振り返る」「誰かの相談に乗る」などのテーマに沿った事前学習を設定する工夫がなされていた。教員は、ワーク中に各グループを巡回し、コメントを残すことで、その後の対話が活性化するように、各グループのファシリテーションにも取り組んでいた。 ● 「プレゼンテーション」では、「おうち暮らしをすることへの提案」というスライド動画づくりを行い、デザイン思考（感性的、右脳的、全体的な見方）の考え方を体感し、アウトプットする取り組みを行っていた。現在の状況を踏まえた身近なテーマ設定を行い、受講生の参画度を高める工夫がなされていた。 ● 受講生のインタビューからは、難易度の高い課題や多様なテーマにグループで取り組み、対話を重ねることで、「受講生同士が勉強し合い、互いを高めていくことができる授業であった」「幅広いキャリアを持った現職院生同士と関わり、視点が広がり思考の柔軟性が高まった」、「学生同士のつながりが出来てうれしかった」といった感想を聞くことができた。 <p>以上のことから、本授業は、教員が明確なビジョンを持ち、様々な工夫を行うことで、受講生の参画度を高め、受講生は高い参加意識のもと、主体的で創造的な取り組みを行い、自身の学びを実感できたことがうかがわれる。これらは、「優れた授業は、参加するすべての構成員の高い意識があってはじめて成立する」というベストクラスの考えに合致するため、本授業をベストクラスとして推薦する。</p>			